

2009年10月9日

佐賀県議会議長 留守 茂幸 様

止めようプルサーマル・佐賀  
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会

「九州電力のMOX燃料に、関電が不合格にした燃料が入っている可能性は否定できない」と原子力安全・保安院が明言しました。

佐賀県議会に原子力安全・保安院を呼んで説明を受けてください

九州電力のMOX燃料が絶対に安全だと確認できるまで、装荷を認めないで下さい。

私達は、10月8日の佐賀新聞（26面）にも報道されている東京での7日の原子力安全・保安院との交渉に参加しました。

国の安全確認のお粗末さ（不合格品が出た関西電力の自主検査項目と同じ項目について、九州電力からただ合格したと聞いただけで数値などは確認していない等）を直接目の当たりにし、「MOX装荷は一時凍結されるべきだ」と確信して帰ってきました。

7日参議院議員会館第6会議室で行われた交渉には、原子力安全・保安院の検査課から、石垣宏毅・統括審査官と百瀬孝文・施設検査係長が出席しました。近藤正道参議院議員（新潟）、淵上貞雄参議院議員（福岡）が終始出席され、7名の議員秘書や市民を含めて約40名が参加しました。

以下は、10月7日の原子力安全・保安院との交渉で明らかになった内容です。

- ① 原子力安全・保安院は、関西電力が自主検査で不合格としたレベルの燃料が玄海原発のMOX燃料に入っている可能性を「否定できない」という見解を明確に示しました。
- ② 保安院は、自主検査項目について、「九州電力は関西電力と同様の検査項目を設定しているが、正確に同じかは確認できていない」と述べ、自主検査項目の比較さえ、正確には行っていませんでした。
- ③ 九州電力からは、「自主検査に合格している」と聞いただけで、その根拠となるデータ等は一切確認していませんでした。
- ④ 保安院はデータ等の確認もなしに、「九電から不合格品はないと聞いている」と百瀬孝文・施設検査係長が佐賀県の課長補佐（男性）に伝えたといえます。

佐賀では、この自主検査問題が県議会でも大きな問題となっているのにです。

今回、佐賀県や九電が繰り返す、「国が安全を確認している」の内容は、ただ、九州電力が「自主検査に合格している」と言っていることを、繰り返しているだけで、国として具体的な確認は何もしていないことが明らかになりました。

また、驚くべき発言も飛び出しました。「自主検査に合格するとかえって安全性はそこなわれる」などと保安院は言いました。そうすると、自主検査に合格したものを使用する九州電力は、かえって危険になる事となります。もう、無茶苦茶です。あげくには「B級品（不良品）をつくることがあっても品質保証は大丈夫」等と暴言まで飛び出しました。

ドイツの環境省（原子力安全規制当局）は、関電不良品問題を受けて、ドイツの電力会社に調査するよう指示を出し、現在も調査中です。これについても保安院は「知りません」と答えました。BNFLデータ捏造事件の教訓として、日本政府は、海外の規制当局とも連絡を取り合いながらMOX燃料の安全性には万全を期すことを表明しているにもかかわらず、です。

交渉の最後に、次の事を保安院に要求しました。

1. 関電で不合格となったMOX燃料の検査の項目と検査内容、検査結果、
2. 九電の自主検査の項目、関電で不合格となった項目と同じ項目についての検査内容と検査結果、
3. 佐賀県からの問合せとそれに対する保安院の回答についての詳細の3点についてデータ開示を要求し、
4. この問題が解決するまでは、玄海原発でのMOX燃料の装荷を見合わせるよう指導すること。

9月の佐賀県議会が示された意思に基づき、

佐賀県議会に原子力安全・保安院を呼び、国が確認した内容の説明を受けてください。

九州電力のMOX燃料が絶対に安全だと確認できるまで、装荷を認めないで下さい。